

2026年3月31日

各位

会社名 株式会社 坪田ラボ
 代表者名 代表取締役社長 坪田 一男
 (コード番号：4890 東証グロース市場)
 問合せ先 企画管理本部マネージャー 木下 淳
 (TEL 03-6384-2866)

眼移植片対宿主病を対象とした「TLM-017」の特定臨床研究における FPI のお知らせ

株式会社坪田ラボ（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：坪田一男、以下「当社」）は、当社パイプライン TLM-017 において、新宿シティ眼科院長である小川葉子医師を統括管理者兼研究責任医師とする特定臨床研究（以下「本研究」）を実施し、2026年3月6日に最初の被験者の組み入れ（FPI：First Patient In）が開始されたのでお知らせいたします。

本研究は医師主導のもと、TLM-017 の安全性及び予備的な有効性を検討する目的で行われます。なお、本研究は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づく薬事承認申請を目的とする治験ではございません。

研究名称：眼移植片対宿主病に対する TLM-017 の安全性及び予備的な有効性を検討する探索的臨床研究（臨床研究実施計画番号：[jRCTs031250695](#)）

研究責任医師：小川 葉子

研究の目的：眼 GVHD 患者に TLM-017 点眼液を単日又は連日投与した際の、眼局所における安全性を評価する。

対象疾患名：眼 GVHD

以上

◇ TLM-017 について

TLM-017 は、骨髄移植後に発症する眼移植片対宿主病（眼 GVHD）による重症ドライアイや角結膜障害を対象とした点眼薬候補です。現在、眼 GVHD によるドライアイの急速な進行や眼局所の炎症を抑制する治療は、十分な選択肢が提供されておりませんが、当社の TLM-017 はドライアイや角結膜障害による目の炎症を抑制し、患者様の生活の質（QOL）向上に貢献する点眼薬となることを期待し、開発を進めています。

◇ 眼移植片対宿主病（眼 GVHD）について

GVHD は同種造血幹細胞移植後にドナーの免疫細胞が患者様の眼組織を異物とみなし攻撃することで発症する合併症です。GVHD の中でも、眼に発症する眼移植片対宿主病（眼 GVHD）は、慢性 GVHD であることが多く、重度のドライアイや激しい痛み、視力低下を伴います。悪化する

と角膜損傷を招き、生活の質（QOL）を著しく損なう恐れがあるため、早期診断と適切な治療が重要といわれています。